

岩手県立花巻清風支援学校 令和5年度 第3回学校運営協議会議事録

1 日 時 令和5年2月20日（火）10:00～12:00

2 会 場 本校会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議会委員出席14名 欠席1名

会 長 学識経験者  
副会長 北上地区、福祉関係者  
A委員 地域関係者  
B委員 遠野地区、福祉関係者  
C委員 NPO関係者  
D委員 企業関係者  
E委員 企業関係者  
F委員 行政関係者  
G委員 教育関係者  
H委員 教育関係者  
I委員 PTA関係者  
J委員 同窓会関係者  
K委員 同窓会関係者  
校 長 本校職員

【欠席】

L委員 企業関係者

(2) 本校職員13名

4 学校運営協議会議事録

(1) 開会

(2) 校長挨拶

本日は年度末のお忙しい中時間を割いていただき、ありがとうございます。

本日が今年度最後の学校運営協議会となります。

今年度これまでの本校の教育活動について報告させていただきますとともに、「学校評価」の集計結果につきましてもご報告をさせていただき、ご意見を賜りたいと思います。

今年度は5月より新型コロナウイルス感染症対応が感染法上の5類へ移行されたことにより、学校の教育活動も段階を追いながら、その範囲を広げて参りました。しかしながら「こたままつり」等、地域の感染拡大状況から校内開催の形を継続させていただいた行事もございました。楽しみにして下さった同窓生の方々や、地域の方々のご期待に沿うことが出来ず、大変申し訳なく思います。

次年度の学校経営計画の素案についてはこの後お諮りさせていただきますが、教育活動の内容や範囲につきましては、「コロナ禍前に戻す」ということではなく、児童生徒の状況や社会の状況を踏まえ、本校に学ぶ児童生徒の皆さんが、学校卒業後に地域社会の中で生活するために必要な力を確実に育むための新しい形を作って参りたいと考えています。委員の皆様をはじめ地域社会の様々な方々からのお力添えをいただきながら、児童生徒の成長に必要と考えられる教育活動を展開して参りたいと考えております。

### (3) 会長挨拶

本日が今年度最後の会となります。校長挨拶にもありましたが学校評価、次年度に向けての計画についてです。委員の皆様から忌憚ないご意見をいただきながら確認と承認をお願いします。

### (4) 今年度の地域との連携・協働の状況について

資料のとおり

### (5) 協議【進行 会長】

ア 学校評価について

#### 【副校長】

目的、実施方法、対象者については資料のとおり。

今年度からアンケート対象者全員 F o r m s 回答とした。昨年度は教員のみが F o r m s 利用の回答だったが保護者アンケートも Web 回答がよいという意見があったため今年度から取り入れた。保護者へは一斉メールにてアンケート URL を送付し、そこから回答できるようにした。紙によるアンケートと異なり、時間があるとき後で回答すればよいと思われた方もおり、期限までの回答率が悪く、未回答者へ再度、文書にて協力依頼した。昨年度 91.1%の回答率が今年度は 83.8%と若干回答率がダウンした。保護者の方々が今回のアンケート方式に慣れてくれば回答率もアップすると思われる。

評価方法については点数と%による評価とした。回答の分析については3点未満と80%未満を重点検討事項とし分析した。

アンケート設問については昨年度と同じ質問項目としたが主語がはっきりせず回答しにくいという意見があったため主語を「あなたは」としたことから単純に昨年度とは比較できない部分もあるため参考としてご覧いただきたい。

#### ○「教職員対象アンケート」について

多くが肯定的意見であり、評価点 3.0 以上が多くあった。学校目標の達成に向けて教育活動等に取り組んでいることを始めとして、いじめのない学校づくりなど4項目で100%、評価点が非常に高くなった。昨年度、教職員を対象としたアンケートで最も低かった働き方改革の推進について肯定的評価は68.4%から84.4%と16%の伸びがみられた。働き方改革に対する個々の意識変化が少しずつだが浸透してきている表れと捉えるが多忙感が完全解消されたと実感するには至っていない。勤務時間外以降も学校に残るために鍵を借りる場合のあり方を見直したことで逆に持ち帰り業務が増えたという意見もあった。

校内人事において特定の教員に業務が偏らないように調整に配慮する必要がある。一方、新型コロナウイルス感染症の5類引下に伴い、さまざまな学校行事の計画、立案において通常対応と感染症対応の2種類準備する必要がなくなったこと、昨年度実施した創立50周年各種事業がなくなったことが気持ちの上での負担軽減につながったと考える。

中間反省では職員会議の持ち方について分教室も含めた全体に関わる部分と本校のみに関する内容に分けて行うよう見直しを図った。また、12月から定時退庁について毎週水曜日一斉からノー残業デーを個人ごとに決めて取り組むといった弾力的な運用に切り替えたこと等について今後注視していく。

関係機関との連携による進路情報の提供や進路指導の充実、地域貢献については90%以下の結果となった。自由記述には進路指導に関わる場面が少ない、関係機関との連携が取れていない、地域との交流は来ていただく活動だけではなく、出掛けていく活動を増やすべきという意見があった。関係機関との連携、働き方改革の推進については、それぞれ検討事項とし、次年度以降も取り組んでいく。なお、D 評価の分からないと回答した理由としては自分の立場では直接関わる場面がないということを経験していることが多くみられた。

#### ○「保護者対象アンケート」について

すべての項目において肯定的評価の割合が95%、評価点3.5以上、約半分の項目において肯定的評価が100%となる等、学校に対する評価が高かった。寄宿舎についても肯定的評価が100%、評価点も

3.8と高い結果になった。3.5未満は、他の学校との交流や地域の方と連携した学習が3.4であった。肯定的評価の割合は96.4%と低い状況ではない。昨年度もこの項目は最も低い結果であったが87.9%から8.5%上昇。感染症法上の引下で校外学習や交流及び共同学習が実施されるようになってきたためと考える。自由記述には、学年が上がるごとに地域との交流が少なくなってきたこと、ホームページの更新時期が分かりにくいこと等について意見があり、地域との連携は検討事項として継続して取り組むことが求められている結果となった。

#### ○「児童生徒アンケート」について

回答可能な児童生徒を対象とした。肯定的評価の割合は93%以上であり、おおむね学校生活に満足している児童生徒が多かった。自由記述には夏場のエアコン、冬場の暖房等の施設設備環境に関する改善の意見、通学に係るバス路線の利便性向上についての要望があった。寄宿舎に対する設問項目も肯定的な評価であった。

#### ○「まとめ」

今後の教育活動については、教職員、保護者、児童、生徒の三者とも評価はおおむね適切に指導支援しているという結果となった。関係機関や他校、地域との連携については教職員と保護者からの評価が低いことから改善に努める必要がある。

保護者評価は高評価であったが自由記述にある個々の意見について情報共有し、今後も適切で丁寧な指導や支援に努めていく。

教職員の働きやすい環境がなければ、教育活動の充実も図られないことから引き続き、働き方改革の推進にも努めていく。今後も児童生徒の自立と社会参加に向け各関係機関や地域とのつながりを重視し、主体的に活動できる指導支援の実践、教育活動の積極的な情報発信に努めていきたい。

#### 【司会】

項目ごとに説明いただいた。昨年との違いは通常の教育活動に戻つつある中での評価ということだが教職員、保護者、児童生徒と区切り質疑を進める。分からなかったことがあれば質問をお願いしたい。

働き方改革については肯定評価が68.4%から84.4%まで大きく上昇した。さまざまな要因が重なっていると思われる。この点について校長から補足説明をお願いしたい。

#### 【校長】

働き方改革について教職員一人ひとりが実感することは難しいと思いながら取り組んできた。時間的なことと一人ひとりのやりがいについてバランスを図りながら進めることについては非常に悩ましい。教育という仕事は理想を求め、追及していくことに終わりが無い。業務量は減っているわけではないが、できることから少しずつ取り組んできた結果と捉えている。

#### 【J委員】

数字上は改善されたと思うが持ち帰り業務が増えたという記述があるということは率直に言えば業務量は減っていないという裏返しと思う。一番よいのは職員の数が増えることだがそれは難しいと思われる。だからこそ業務のあり方そのものを見直す必要があると思う。

#### 【司会】

タイムカードによる時間管理をしていると思うが少し説明願いたい。

#### 【副校長】

出退勤時に各職員室でタイムカード打刻をしている。早出勤し遅くまで残る職員はある程度固定化している。勤務時間内でこなしきれない業務を持ち帰らざるをえない状況にあり業務負担のバランスには偏りがある。来年度の校内人事等で考慮していく必要がある。どのような業務で残らなければいけないのか、どのような業務に負担を感じているのか等について可視化し、来年度以降の取組の参考としていきたい。

#### 【事務長】

衛生委員会において前年度、前々年度との在校時間を比較している。令和4年、5年における45時間超の時間外勤務数はかなり減った。時間とは別に多忙感もあると思うが、それについても今後できる取組を進めたいと思う。

#### 【司会】

仕事柄、区切りを付けにくいという話もあった。小学校や中学校の働き方改革状況について教えていただきたい。

#### 【G委員】

本校は小規模校だが時間外勤務者が多い。職員数は少ないが業務内容は他校と同じであり取組を進めにくい状況にある。管理職として対策を練るが個々の意識を変えることが重要だと思っている。業務に優先順位をつけながら取り組むことが必要と捉えている。清風で個々の意識が徐々に変わってきたという報告があり素晴らしいと思った。

#### 【H委員】

部活動指導が長時間勤務につながっているという現状。今年度から部活動の地域移行を市教育委員会中心に進めており、モデル校となった。土日の部活動指導は、これまで外部コーチをされた方々にスポーツ指導員登録をしていただき、スポーツ指導員が付く指導は顧問教員がつかなくてもよいルールとなったため徐々に教員の負担が少なくなっている。教員によっては積極的に指導したい教員もいるが大会への引率は必要となるため、土日の練習には付かなくてよいということを繰り返し伝えている。

中学校では月曜日を部活動なしの日として取組んでいるためノー残業デーは月曜日設定している。清風では一斉実施ではなく個人ごとの取組と報告があった。個々に任せると帰らない教員もいると思うがどのような工夫をしているかお聞きしたい。

#### 【副校長】

今日は早く帰る日にしているという意思を視覚化するよう職員室の決められたボードに名前を貼る取組をしている。手伝ってもらいたい仕事の声かけやちょっとした打ち合わせを実施したいと考える教員もそのボードを確認し声かけを控えることで個人のスケジュール感で取組めるようにと試行錯誤しているところである。

#### 【司会】

民間は時間管理が厳しいと思いますがいかがか。

#### 【E委員】

教師の責任としてパフォーマンスが下がってはいけませんが、先ほどの評価結果では保護者の満足度もよい。今年度のパフォーマンスに限っては落ちていないと言える。長い目でみると働き方改革はパフォーマンスとの相互関係にあることから5年、10年後にどうなるのかという心配もある。保護者の満足度と併せ調べているのであればセーフティネットが張られており安心だ。

福祉、行政機関との連携、協働、地域貢献の教職員評価においてCDEが多い結果となった。説明では職務上そのような業務に携わる立場にないとの回答が多くあるためとの説明があった。この評価を上げることを目指すのか、立場によって関わらない教職員も多いため仕方がない評価結果と捉えるのであればそのように説明していただくのでよいと感じた。仕事は役割分担だと思うので何らかの形で全員が関わってほしいと思うところもあるのかもしれないがその環境づくりとしての難しさもあると思うので次回はそのように説明してもらおうのでよいと感じた。

#### 【司会】

業務や時間を減らすことはよいがその一方、学校現場では児童生徒、保護者の満足度が落ちては意味がなくなる。削減と満足度のバランスをみながらそれぞれの教員の得意分野の生かし方や教職員間での共通理解がポイントになると思う。

#### 【A委員】

定時退庁、ノー残業デーについての説明に違和感をもった。あくまでも一斉に業務をストップさせ取組むことがノー残業デーではないか。電源を落とすなど帰らざるをえない状況にするのがよいと思う。個別の事情があるにせよ一般的なノー残業デーという言葉になじまない取組と感じた。会社が業務や労働時間を減らせと話したところで減るものではない。休暇取得せず土日も働くことが美德とされた時代があったが今は休暇を取得する、労働時間を減らし、自分時間をもつという時代になった。いずれ効果があるのは一斉にロックアウトすることだと思う。相談したい相手がいない、電気がつかない、パソコンも使用できないという状況になれば帰らざるをえない。当時の職場上司はいつまでもただ取り組むのは仕事ができないということ、決められた時間内で仕事終わることが評価の大きな軸と話していた。皆さんが一斉に帰るという取組が周りからみてもよいと感じた。この学校における教職員の休暇取得状況について聞きたい。

#### 【事務長】

年次休暇は年間20日付与されている平均すると一人14日程度消化している。夏季休暇は5日あり7月～9月期間でおおむね消化されている。産前休暇、育児休暇は女性職員は100%、男性職員は付随した休暇が新設されていることもあり育児休暇を取得した者はいない。

#### 【司会】

保護者評価について伸びたという説明があったが地域連携やホームページ更新について課題があるようだが意見を伺いたい。

#### 【I委員】

在籍11年目になる。始めの頃と比べるとだいぶ改善されたが得意な先生とそうじゃない先生との差があるように感じる。他校ホームページを見るとわかりやすさや掲載内容がタイムリーなど本校でも改善できることがまだあると感じる。例えば小学部だけ更新したということもあるがすべての学部で現在取組んでいることなど同時に掲載してもらえるとよいと思う。保護者のなかにはホームページの存在を知っていても閲覧する保護者は少ないようなので更新の周知についても改善してもらえたらよい。

一斉メールが全国的にも多く活用されている「マチコミ」に変更され保護者もアプリで見ることができるようになった。今年は熊出没情報が頻繁に入ったが同様に子どもたちの様子をもっと発信してもらえると嬉しい。得意な先生だけではなく勉強会を開き先生方のスキルをあげるなども検討し、せっかくのツールをフル活用してもらえるとよい。学校評価アンケートの保護者回答率がよくなかったという説明もあった。ホームページが改善され閲覧する回数が増えることはWebによる学校評価の回答率上昇にもつながるのではないかと思う。

#### 【副校長】

メールの件は来年度からちらしや各種案内も「マチコミ」活用による発信予定とし、現在その準備を進めている。他校のものも参考にしながら閲覧したくなるようなホームページ、素敵だと感じてもらえるホームページを目指し少しずつ改善を図っていきたいと思う。

#### 【E委員】

会社やさまざまな団体などに連絡する際、FAXや手紙ではなくメール活用の要望を伝えるが反対されることが多い。保護者の立場からどんどん進めてほしいという要望があったが私も民間で多くの

方々と話をしていると驚くことが多々ある。メールが本当に届いているか定期的に確認する必要がある。子どもの写真や動画を多く撮りすぎメモリがいっぱいでアプリが入らない方やメールが届かない状態でも気にしない人もいる。メモリを整理すると情報がきちんと届くということを伝えていくことも必要。メールを受け取れない人はさまざまな状況の人がいることをおさえておく必要がある。

#### 【司会】

緊急メールについてはどのようなになっているか。

#### 【副校長】

緊急連絡は一斉メールを活用している。登録完了していない保護者には電話で個別対応している。登録の仕方がわからない保護者もおり来校時に登録方法や手順などについて説明するなどして登録の個別対応もしている。

#### 【司会】

児童生徒評価に入ります。子どもからの評価をまとめる難しさもあったと思うが、寄宿舎の評価は100%でとてもよいと思いながら拝見した。児童生徒目線からご意見をもらいたい。

#### 【C委員】

福祉分野では保護者から公共交通機関を使えるようになってほしいという要望をもらうが十分に対応できていない状況にある。学校で行っている電車やバス通学生への支援体制や今後の支援の在り方について考えていることがあれば教えてもらいたい。また、広域から通学しているためバス運行についてこれまで出された要望やそれらについて検討してきた経緯や内容についても教えていただきたい。県教育委員会の領域になるかもしれないがスクールバス運転に関する一定の考え方や方針が存在しているかということについて伺いたい。

#### 【事務長】

公共交通機関を利用し通学している生徒は十名程度。単独通学を始める前に先生方と一緒に練習に取り組み、安全に通える力が身に付いているか確認している。通学費用は就学奨励費という国の制度で対応しており実費が支給されている。

学校行事で午前授業のときはスクールバスで花巻駅まで送迎している。関連した話になるがスクールバスでの通学送迎ということになると本校はスクールバスが一台しかなく、運転技師も一人のため勤務を組めない状況にある。運転技師をさらに雇うことも経費の面から難しい状況にある。

#### 【副校長】

通学指導について補足する。保護者の協力を得ながら土日に練習してもらい様子をみてもらう。本人と保護者ができると判断すれば申請してもらい学校が指導するという流れとなっている。

スクールバス要望については県がアンケートを実施した。結果をみるとスクールバスを出してほしいという希望はなかった。

#### 【I委員】

県教育委員会に学校からの要望書を出している。今年度は要請の場に参加することができた。県教育委員会の回答は、県交通の増便は無理であることや場合によっては減便になる可能性もあるという回答だった。県交通を利用し通学する生徒がいるので最低でも現状維持をしてほしいことを伝えた。新聞等でもご存じと思うが運転手不足で県交通の運営も厳しいとのこと。要望はわかるが対応は難しいとの回答だった。通学について負担と感じる保護者もいるため通学に関するアンケートを実施した。スクールバス対応してほしいということが数字には表れない結果となったが、あれば利用したいという保護者はたくさんいると思う。保護者送迎が難しい家庭は登下校ともレスパイト事業所利用している。朝の送迎については奨励費対象外であることから2万円以上の利用料金を全額負担している。こ

のような現状がある以上 PTA としても県教育委員会への要望を継続していきたいが学校、県交通とも運転手不足のためよい回答を得られない状況にある。

【校長】

県交通の今後の見通しも立たないない状況があり将来的にも厳しい状況になることが予想されると伝えている。現段階では具体的に運転技師を増やすことやスクールバスを増やすことなどの具体的な話が進んでいない。本校に限ったことではないが運転技師確保等は県内各支援学校では共通の課題である。引き続き働き掛けていく必要がある。

【C委員】

県交通利用に当たり乗車場所や降車場所に教員のサポートがあると聞いた。実際に行われているか教えてほしい。

【副校長】

年度始めの新生入生が慣れるまでの期間、教員が付き指導や見守りをする。学校前バス停の降車場所には毎朝職員が出迎えている。

【司会】

県交通の減便等、厳しい状況だが一人でも利用する生徒がいる限り、要望は続けていただきたい。

【A委員】

通学に利用するバスは花巻駅が発だと思うが駅まではどのような方法で行くのか、路線途中から乗車する生徒はどれくらいいるのか。

【副校長】

北上方面居住の生徒は J R を利用し花巻駅で下車して利用している。経路途中では鍛冶町や藤沢町から乗車する生徒がいる。

【A委員】

地域代表として花巻市公共交通整備検討委員を務めている。令和6年からの花巻市公共交通プランによれば花巻から東和町土沢方面のバス運行は廃止計画となっており、都市政策課公共交通担当者が各コミュニティを回り説明会を実施している。市は現在所有するバスを利用し、市が運営する形で存続させるという計画をもっているようだ。過去にも笹間線が廃止となり住民の困ったという声があり乗合タクシーという社会実験を経たという経緯を聞いた。バス路線がなくなるところは予約乗り合いタクシー導入というのは過去の例と変わらない。今回、驚いたのは湯口、湯本、宮野目といった私どもの感覚からすれば開けている地域と思える地域でも交通空白地帯という概念によりバス停から300m以上、駅から800m以上離れているという要件でマッピングするとこれらのエリアは交通空白地帯に該当するようだ。そのため先ほど話した乗合タクシーの導入という計画になっているようだ。太田線も本当は廃止にしたいようだが清風支援学校があるため残すという話を聞いた。太田地域とすれば学校があるから廃止にならず助かったということ。県交通も支援学校生徒の他に地域住民が利用している状況ならよいが一般の人はほとんどが自家用車利用だ。バス停に近い方やご高齢の方以外はバス利用しない。学校が今よりもバス利用できるくらいの生徒を育て、利用者を増やすことができればしばらく廃止にならずにすむと思う。

【司会】

今後もバス路線が存続できるよう公共交通機関利用の学習も検討してはどうか。

### 【J委員】

社会ではカードや電子決済が進んでいる。支援学校ではカードの使い方などの教育をしているか聞きたい。また、学校評価のまとめには教職員が働きやすい環境がなければ教育活動の充実も図られないとある。私が退職した会社では若手社員の離職が増えていることが課題だった。コロナ禍以前は0.4%だったが直近数字では1.4%と約3倍超。同様に学校教職員の離職も全体でみるとかなりあると聞いた。学校としても教職員が働きやすい環境づくりに力を入れていただきたいと思う。

### 【副校長】

買い物学習はそれぞれ学部で取り組んでいる。高等部では卒業後の社会生活を見据え1月に金融経済セミナーを実施し、学習機会を設けた。

### 【高等部主事】

金融経済セミナーではカード等、可視化されないお金の流れを生徒がイメージできにくいことを講師先生に伝えた。生徒に電子マネーの利用経験や通信販売の買い物経験を聞いたところ2・3年生で4名いた。また、4名とも保護者端末からの利用だった。お金が通帳から引かれるといったこと等の理解が難しい。現金を介したやり取りを充実させながらイメージできるように取り組んでいく必要がある。保護者と連携した取り組みが必要と感じた。

### 【校長】

本校では採用後すぐ辞めたいという教職員はいなかった。他校では仕事を始める前のイメージと違ったという理由で3か月で辞めた方がいたようだ。若い教職員には子どもたちが成長する姿に喜びとやりがいを実感してもらい教育という仕事の素晴らしさが実感できるような職場環境づくりに努めていく必要があると感じている。

## — 休 憩 —

### イ、令和6年度の学校運営について

#### 【校長】

次年度の学校経営に当たっては第一に社会状況の変化と特別支援学校卒業後の進路先職種の多様化を踏まえない。第二にキャリア教育推進に向けたカリキュラムマネジメント、第三は障害がある人たちの自己選択、自己決定、自己責任の保障を踏まえない。特にも三つめは障害がある方たちの人権保障の前提となる大切な事項と考える。個人が社会生活を営む上で自身の生き方について自分で考え、自分で決め、その結果に責任をもつことは障害の有無に関わらず社会の構成員として非常に大切な要素であると考え。自己選択、自己決定、自己責任という力を育むために児童生徒自身が経験の幅を広げ、失敗も成功も含め経験値を積み重ねていくことが大切と考える。積み重ねるなかで自身の得手不得や適正、自らの生き方を選択する力を育むことにつながると考える。

多様な状態にある児童生徒が学ぶ特別支援学校だが小学部段階から私たち教員が一人ひとりの児童生徒が将来、社会参加し、自分らしく地域社会の中で生活する姿を踏まえつつ、どの子もその子なりに可能な範囲で体験や経験を積み重ねながら自己選択、自己決定、自己責任を果たすことができる力を育む教育活動を各学部で計画的、段階的、意図的に場面を設定し、工夫しながら展開して参りたい。

地域社会との協働は児童生徒自身が地域社会から必要とされている実感ができる経験と自分自身も地域社会の一員であるという自覚をもたせるとともに、児童生徒にかかわっていただく方々を増やし、障害のある児童生徒の理解促進を拡大するというインクルーシブ教育の充実や共生社会の形成にもつながる大事な学習機会と捉えている。

働き方改革も課題だが業務のスリム化視点、児童生徒の学びの視点、児童生徒の将来に必要なことは何かを考え児童生徒の力として確実に汎化されるような教育を展開するよう努めていく。

#### 【F委員】

障害の有無にかかわらず自己決定の尊重は非常に大事だと考える。市でも令和6年から8年にかけて障害福祉計画を策定している。その一丁目一番地に校長先生が話した本人の自己決定尊重を掲げている。

#### 【D委員】

ここ数年福祉の現場でも本人の自己選択、自己決定を極力尊重し、本人の意思をできるだけ聞くという流れで全体が動いている。後見人をしている私の印象としては障害のある方々はこれまでに自分で選択、決定する場面に慣れていない方も多くいる。選択肢を与えられることがプレッシャーや重荷と感じてしまう方もいる。自分の好きにしていってと言われお金を使いすぎてトラブルになった方もいた。子どものうちから選択肢があり自分で考え決定したりする場面があることで大人になってからの生活につながっていくと思う。

#### 【J委員】

保護者の立場からすれば自己選択、自己決定まではいいと思う。ただ、自己責任という言葉があまりにも大きくなるなら非常に重い。自助だけが先走ってはだめだと思う。共助、公助があり支え合うことが前提にあったうえで自己責任でなければ親とすれば非常に重荷となる。

#### 【校長】

共助、公助がしっかりとありそれを踏まえ自分の決めたことについて一定の責任が伴うということは学校にいるときから少しずつ教えていく必要がある。今のご提言を踏まえ今後の教育活動に生かして参ります。

#### 【司会】

年の初めに能登で地震があった。岩手はだいぶ取り組んできた経緯があるが本校の防災教育はどうか。

#### 【副校長】

学校、寄宿舎とも避難訓練は年間を通して実施している。自分の身は自分で守るという力を身に付けられるように指導している。火災や地震といった災害の他、不審者対応や動物の侵入等の想定でも実施している。3月11日は震災の日集会を計画している。非常時対応として避難所開設についての教職員研修も実施し、避難所としての機能も果たすことができるように備蓄品等も備えている。

#### 【校長】

震災の経験がない世代の子どもたちが主になってきている。震災のときの教訓を今の子どもたちに伝えていくことは一つの課題と捉える。教訓をいかに伝えていくかということは教職員も変わっていくため防災教育のあり方や推進についても考えていかなければならない。

#### 【I委員】

全国知的障害者PTA全国大会が石川県で開催された。幹事校であった支援学校が被災し、福祉避難所となるはずの支援学校がまったく機能できなかったようだ。先日、被災した石川の支援学校PTA会長に連絡する機会があった。現在も生徒の2割しか登校できていないようだ。学校が福祉避難所に指定されれば安心と思ってしまうが学校が被災すればその機能も果たせない。私たちが経験したがあらためて自分の身に起きたということを考えなければいけない。学校には非常食を預けている。実際に避難所に集まり非常食を用意して食べる経験も必要。先生方も避難所開設の研修もしていると思うが先生自身が被災し学校に来られないことも考えられる。保護者と連携した訓練も必要だと思う。

#### 【司会】

全国の防災研修会に参加したことがある。学校で実施している避難訓練は経路確認や避難完了までの時間を早くするといったことに注目しがちだが震度6や7の大地震、落下物や大火災が発生した状況下で子どもたちの安全を確保できるのかという話があった。安全を確保できる力が身に付くように内容を工夫することが必要だと感じた。

#### 【B委員】

自己選択、自己決定の話に戻る。自己選択に当たって選択肢を与えるのは教職員や保護者だと思うがそこにも負担が発生すると思っている。私たちも自分自身に余裕がなければ相手により支援を提供することができない。働き方改革として業務を減らさないことには時間や気持ちのゆとりにはつながっていかない。教職員は大変と思うがよい支援ができるように自分たちが余裕をもちながら教育や業務に当たってほしい。

#### 【K委員】

非常食の試食会が必要だと感じる。上の子どもの卒業のときに震災だった。車内だったが車の揺れがとても怖かったことを覚えている。いつ、何が起こるかわからない。非常食を食べる経験は是非取り組んでもらいたい。

バスについては私たちの地域からも減便しないでほしいという要請をしたがそれも叶わず現在に至っている。親同士のつながりを大切に、情報交換しながら共に歩み、共に進んでいくことが大事。自分に課せられた仕事と日々さまざまな方々と連絡を取り合っている。先生とも話す時間が増えれば本当の意味でつながっていくものと思う。そのような日があればよいと願いつつ、自分ができることに今後も取り組みたい。

#### 【司会】

今日いただいた多くのご提言を検討し、次年度の学校運営に生かしていただきたい。

#### (6) 連絡事項

##### 【副校長】

次年度の学校運営協議委員については1年任期となっているが継続して依頼したいと考えている。ご都合がある方はお知らせ願いたい。B委員は2年間委員を務めていただき今年度をもって交代となる。

次年度の委員委嘱は新年度に行う予定としている。

#### (7) 閉会